

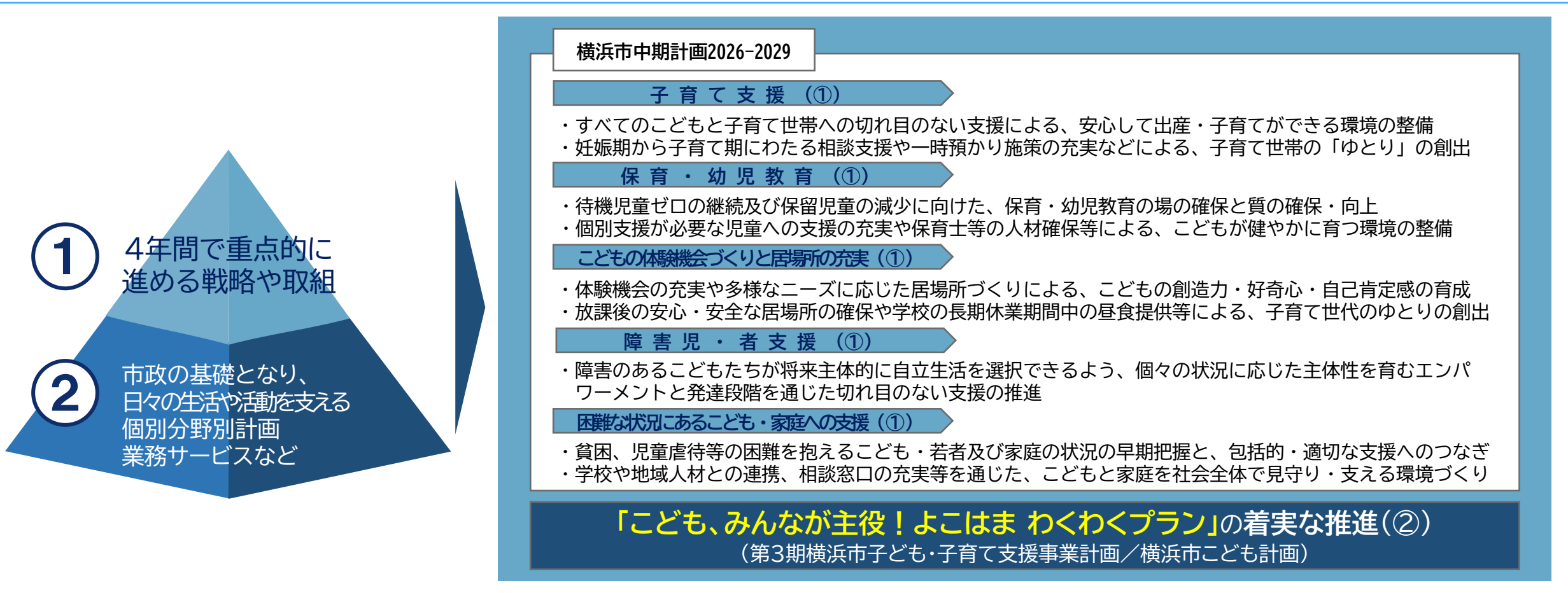
令和8年度 こども青少年局 運営方針

I 基本目標

令和8年度は、「市民の実感」を最上位目標としてまとめた、「横浜市中期計画2026-2029」の初年度です。

市民の皆様の暮らしの意識や状態を定期的に把握、検証しながら取組を推進し、「市民生活の安心・安全×横浜の持続的な成長・発展」、そして、「明日をひらく都市」の実現につなげます。

こども青少年局では、こどもたちの健やかな成長と子育てしやすいまちの実現に向け、「横浜市中期計画2026-2029」※1に掲げる施策(①)や「よこはま わくわくプラン」を着実に推進します(②)。



① 4年間で重点的に進める戦略や取組

② 市政の基礎となり、日々の生活や活動を支える個別分野別計画業務サービスなど

横浜市中期計画2026-2029

子育て支援(①)

- ・すべてのこどもと子育て世帯への切れ目のない支援による、安心して出産・子育てができる環境の整備
- ・妊娠期から子育て期にわたる相談支援や一時預かり施策の充実などによる、子育て世帯の「ゆとり」の創出

保育・幼児教育(①)

- ・待機児童ゼロの継続及び保留児童の減少に向けた、保育・幼児教育の場の確保と質の確保・向上
- ・個別支援が必要な児童への支援の充実や保育士等の人材確保等による、こどもが健やかに育つ環境の整備

こどもの体験機会づくりと居場所の充実(①)

- ・体験機会の充実や多様なニーズに応じた居場所づくりによる、こどもの創造力・好奇心・自己肯定感の育成
- ・放課後の安心・安全な居場所の確保や学校の長期休業期間中の昼食提供等による、子育て世代のゆとりの創出

障害児・者支援(①)

- ・障害のあるこどもたちが将来主体的に自立生活を選択できるよう、個々の状況に応じた主体性を育むエンパワメントと発達段階を通じた切れ目のない支援の推進

困難な状況にあるこども・家庭への支援(①)

- ・貧困、児童虐待等の困難を抱えるこども・若者及び家庭の状況の早期把握と、包括的・適切な支援へのつなぎ
- ・学校や地域人材との連携、相談窓口の充実等を通じた、こどもと家庭を社会全体で見守り・支える環境づくり

「こども、みんなが主役！よこはま わくわくプラン」の着実な推進(②)

(第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画／横浜市こども計画)

令和8年度 こども青少年局 運営方針

Ⅱ 目標達成に向けた施策

◆生まれる前から乳幼児期までの一貫した支援の充実

だれもが安心して出産・子育てができる環境を整えるため、生まれる前から乳幼児期までの一貫した支援を充実し、こどもの健やかな育ちを支えます。
新たに5歳児健康診査の実施に向けた体制整備や、3歳児健康診査における視聴覚検査の全区実施、産後母子ケア事業の申請手続きの利便性向上等を行います。
地域子育て支援拠点等の地域における子育て支援の場や機会の拡充にも引き続き取り組めます。

◆保育・幼児教育の場の確保及び質の確保・向上

新中期

政策群4 こども・子育て
施策群7 保育・幼児教育

待機児童ゼロの継続及び保育の必要性が高い保留児童の削減に向けて、特に保育ニーズが高い地域において、既存の保育・教育資源の活用及び地域型保育事業等の新規整備を通じて、1・2歳児を中心とした受入枠の確保を進めます。
就学前児童数の減少等による、今後の保育ニーズの変化を見据え、施設整備によらない待機児童対策も行うとともに、こどもの豊かな育ちを支えるため、保育・教育の質を確保・向上させるための取組を推進します。

◆一時預かりの充実

新中期

政策群4 こども・子育て
施策群6 子育て支援

共働き世帯が増えるなど子育て家庭のライフスタイルが変化中、保護者が気持ちに余裕をもってこどもと向き合い、こどもの健やかな成長につなげていくため、こどもも親も安心して利用できる一時預かりを実施します。
保育所、幼稚園、商業・集客施設、市庁舎・区庁舎(一部)等での一時預かりやこどもが楽しめるプログラム、病児保育等、様々な事業を推進します。

◆こどもの体験機会づくりと居場所の充実

新中期

政策群4 こども・子育て
施策群8 こどもの体験機会づくりと居場所の充実

すべてのこどもが、創造力や好奇心、自己肯定感を育むことができるよう、年齢に応じた体験機会の充実や多様なニーズに応じた居場所づくりに取り組めます。
令和8年度は、放課後キッズクラブを活用した夏季休業期間中のこどもの体験機会の確保や、出張プレイパークの開催支援、公共施設等を活用した青少年の居場所づくり事業のモデル実施等を行います。

◆「パマトコ」の利便性向上

新中期

政策群4 こども・子育て
施策群6 子育て支援

保護者・こども一人ひとりに合わせた情報を提供するとともに、さまざまな手続きを行うことができるアプリ「パマトコ」を運用します。
引き続き、オンライン申請可能な手続きの拡充やポイント機能の実装、手続きの一括申請、各種申請における結果通知のデジタル化等により、さらなる利便性の向上を図ります。

◆障害児支援

新中期

政策群7 障害児・者
施策群15 障害児・者支援

障害のあるこどもたちが将来自らの選択により自立生活を実現できるよう、個々の状況に応じた本人の主体性を獲得する力を引き出し、育てていく支援(エンパワーメント)と合わせ、乳幼児期、学齢期、青年期、成人期を通じた切れ目のない支援を推進します。
令和8年度は、地域療育センターにおける「きょうだい児預かり」や医療的ケア児・者等一時預かり事業等を拡充し、支援の充実を進めます。

◆困難な状況にあるこども・家庭への支援

新中期

政策群4 こども・子育て
施策群9 困難な状況にあるこども・家庭への支援

貧困や児童虐待、ひきこもり、ヤングケアラーなどの様々な困難を抱えるこども・若者及びその家庭の状況を早期に把握し、包括的かつ適切な支援へつなげます。
「第3期横浜市こどもの貧困対策に関する計画」の策定や、寄り添い型生活支援事業の拡充などにより、困難を抱えやすいこども・若者への支援の充実に取り組めます。
また、ひとり親家庭に対する総合的な自立支援やDV被害者等とそのこどもに対する、相談、保護、自立に至るまでの切れ目のない支援を行います。

◆区と児童相談所における児童虐待への対応の強化

新中期

政策群4 こども・子育て
施策群9 困難な状況にある
こども・家庭への支援

区役所の相談支援機能の強化、区役所窓口の多言語通訳対応、児童相談所の環境改善等により、総合的な児童虐待防止対策を強化・推進します。

I 基本目標で示した、「①4年間で重点的に進める戦略や取組」に関連する主な施策は

新中期

マークを付けています

令和8年度 こども青少年局 運営方針

Ⅲ 目標達成に向けた組織運営

令和5年1月に策定された「行政運営の基本方針」を踏まえ、持続可能な市政の実現に向けて職員一人ひとりが「市民目線」と「スピード感」を持って業務に取り組めるよう組織運営を行います。また、先を見据えて、将来を担うこどもたちの健やかな育ちを支え、より多くの皆様に「横浜で子育てしたい」と思ってもらえるよう、子育て世代に向けた新たな施策の創出に、組織一丸となってチャレンジしていきます。

1 人材育成・チーム力の強化

- 職員一人ひとりが、常に「こどもにとってどうか」、「この取組は、こどものためになっているのか」という視点で考え、判断し、行動します。
- 「横浜市人材育成ビジョン」を踏まえ、OJTや研修参加など、各職員の能力開発と係長昇任等を見据えたキャリア形成支援に取り組めます。
- 一時保護所や施設をはじめ、こどもに関わるすべての職場において、職員一人ひとりがこどもの人権と安全、安心を守るという強い意識を持って取組を進めます。
- 区や関係局とも組織を超えて連携し「チーム横浜」として施策・事業に取り組めます。区の専門職が個別支援・地域支援双方の業務に注力できるよう、あらゆる業務の効率化について、区局連携により取組を進めます。

2 持続可能な財政運営の推進

- 中長期の運営といった経営的な視点や、組織の壁を越えた「全体最適」の観点から、「創造・転換」を議論し、歳出改革の実行につなげます。「歳出改革基本方針」を職場内で共有し、職場内外での議論を重ね、施策・事業の「選択と集中」による新陳代謝や財源確保に取り組み、横浜のこどもや子育て家庭のために必要な事業を実施します。
- 責任職は、職員からの自由な発想、柔軟な視点での意見や提案を促し、これまで当たり前に行ってきた事業・取組の改善や見直しにつなげます。
- 職員一人ひとりが持続可能な市政運営の実現に取り組んでいくことを「自分事」とし、変化し続ける市民ニーズや社会・経済情勢に「市民目線」「スピード感」「全体最適」の視点で対応し、「創造・転換」にチャレンジする、意識イノベーションを推進します。

3 ワーク・ライフ・バランスの実現とワークスタイル改革の推進

- プライベートの時間を大切にすることは、質の高い仕事と持続可能な働き方にも繋がります。職員一人ひとりが、働き方を見直し、仕事以外の「生活」との調和を図り、心身ともに健康でいきいきと働ける職場環境づくりを推進します。
- 責任職は、計画的な年次休暇の取得や長時間労働の是正をはじめ、出生支援休暇や男性職員の育児休業の取得、介護休暇など、職員の状況に応じた仕事と家庭の両立を積極的に支援します。
- ペーパーレスや会議の効率化の取組を継続するとともに、フレックスタイムやテレワーク、Teams、モバイルアクセスの活用等、ワークスタイル改革を推進します。

4 市民満足（CS）と職員満足（ES）の向上

- 「市民目線」と「スピード感」を重視して、こどもの視点に立った支援や子育て世代への支援を行い、「子育てしやすいまち」を目指すとともに、市民や事業者寄り添ったわかりやすく丁寧な対応を心がけます。
- 年齢や性別、職種、経験年数、雇用形態等を問わず、職員が意欲と能力を最大限発揮できる組織づくりを推進します。責任職は、職員一人ひとりとのコミュニケーションを大切にし、相談しやすい、協力し合える職場をつくりまします。
- 責任職は、日々の取組への感謝や今後への期待を具体的に示し、働きがい高めるマネジメントを行います。
- 事務処理ミスや不祥事の防止、情報セキュリティ対策を進めるなど、職場全体でリスクマネジメントに取り組めます。
- 様々な機会を捉え、GREEN×EXPO 2027の成功に向けた機運醸成に取り組めます。

5 協働と共創の推進

こどもの健やかな成長を社会全体で支えるため、関係機関や地域・NPO等と連携し、現場の声を生かした施策立案・改善と新たな事業創出を進めます。